

FOREIGN AFFAIRS REPORT



フォーリン・アフェアーズ・リポート 2009, NO.10

特集1 中国、アメリカ、ロシアの思惑と攻防 一鍵を握るのはリベラルな思想か、経済成長か

21世紀を主導するのはアメリカか中国か
—— アメリカ衰退論も中国の台頭論も誇張されている

ジョセフ・ジョフィ p.6

米中露トライアングルの勝者は誰か

—— 中国の影響力拡大は続く

ステイーブン・コトキン p.20

結局の所、NATOを変ぼうさせるか、ヨーロッパに新しい安全保障枠組みを立ち上げない限り、米ロ関係をリセットすることはできない。そして純然たる米ロ関係のリセットなしには、ロシアとの関係においても中ロ米の3国間関係においても、優位を手にするのは中国になるだろう。

CFRインタビュー

新型インフルエンザ・ワクチンの不足をいかに埋め合わせるか

デビッド・フェドソン p.31

「現在9カ国(アメリカ、カナダ、西ヨーロッパの5カ国、オーストラリア、日本)に存在するワクチンメーカーは、合計すれば8億4000万人分のワクチンを生産できるだけで、...これでは、数十億の人々にワクチンを提供することは到底できない」。

シリーズ企画 日本の国益を考える

Part 1 日本の戦後アイデンティティ

Classic Selection 1999

超えられなかった過去

—— 戦後日本の社会改革の限界

ウォルター・ラフィーバー p.39

降伏の瞬間が間近に迫った段階でも、東京の空は昼なおよどんでいた。米軍の空襲の残り火だけでなく、抜け目のない軍務官僚たちが膨大な戦時記録を燃やし続けていたからだ。歴史の急旋回を目前に控え、過去を燃やし尽くす必要があったのだ

Classic Selection 1998

誰が日本の方向性を決めているのか？

ニコラス・クリストフ p.46

日米関係の歴史が重要なのは、アメリカとアジアがつねに過去を語り合い、お互いに引かれあい、同意を求めながらも、それでも言い争っているからだ。もし男性が火星（マルス）から、女性が金星（ヴィーナス）からやってきたとすれば、アジア人とアメリカ人はまったく異なる星雲からやってきたに違いない

Classic Selection 2000

官僚と政治家が日本を滅ぼす？

オーレリア・ジョージ・マルガン p.54

Classic Selection 2007

復活した日本と現実主義外交の伝統

マイケル・グリーン p.59

特集2 地球温暖化と環境対策を両立せよ

コペンハーゲンの「不都合な真実」

マイケル・レビ p.66

ブラック・カーボンと低層オゾン対策を

ジェシカ・セドン・ワラック、ビーラバドラン・ラマナタン p.81

地球温暖化には市場メカニズムで対処せよ

ジョエル・クルツマン p.91

フォーリン・アフェアーズ リポート 2009 No. 10

**FOREIGN
AFFAIRS
REPORT**

- 編・監訳 竹下興喜（フォーリン・アフェアーズ・リポート 編集・発行人）
- 翻訳 入江洋、石井知、藤原朝子
- 編集・製作・進行 竹田みどり、梅宮小百合、青井佳恵
- 印刷 株式会社さとう印刷社



www.foreignaffairsj.co.jp

〒113-0021 東京都文京区本駒込 5-20-4 2F
Tel: 03-5815-7152（購読） / 03-5815-7151（編集）
Fax: 03-5815-7153
E-mail: general@foreignaffairsj.co.jp